

海からのメッセージ — 海洋環境と報道

第1章

記者がとらえた海の底

第2章

海と暮らす人々に寄り添う

第3章

南極から地球を考えた
記者たち

今年の夏の海は、
いつもと同じでしたか？

会場 ニュースパーク(日本新聞博物館) 2階企画展示室
開館時間 午前10時~午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日 月曜日(祝日・振替休日の場合は次の平日)
主催 ニュースパーク(日本新聞博物館)
特別協力 船の科学館「海の学びミュージアムサポート」
後援 神奈川県教育委員会/横浜市教育委員会/川崎市教育委員会

今年の夏の海は、いつもと同じでしたか？

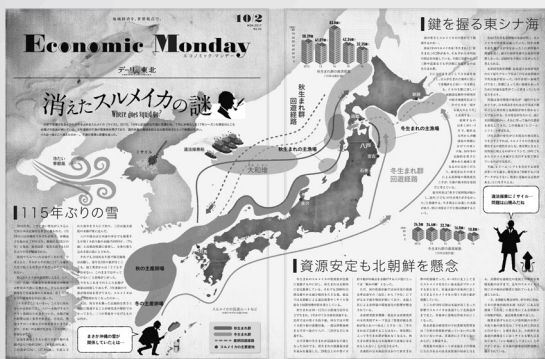
毎日変わらないように見える波の下では、実は大きな変化が起きています。魚の種類の変化やごみの問題、地球温暖化や生物多様性など、海の中には地球の未来を考えるうえでの課題がたくさんありますが、なぜそんな変化が起きているのか、わからないこともいっぱいあります。

本展では、海洋環境にまつわる新聞記事や写真企画を通して、変わりゆく海の現実や、海と暮らし海を守ろうとしている人々の姿をご紹介します。

水中取材に使われた新聞社や放送局の機材も併せて展示します。

南極観測には海洋をはじめ地球環境の変化を知るために重要な意味があります。観測隊に同行している記者が伝えてきた、南極の昔と今も記事や写真でご紹介します。

次の世代に豊かな海をつないでいくために、いまわたしたちに何ができるのか、いっしょに考えてみませんか。



エコノミック・マンデー=2017年10月2日(デーリー東北新聞社提供)



氷の厚さの観測=2017年1月13日(共同通信社提供)



採石業者による不法投棄が続けられた雨畑川(山梨県早川町)。因果関係は未解明だが、川ではアユなどが海でもサクラエビが激減している=2019年4月21日(静岡新聞社提供)



水中撮影カメラ「ゆりかご1号」。海に沈めて船上からシャッターを押す。ホームセンターで買った材料で記者が手作りした=2012年10月2日(中国新聞社提供)



宮崎日日新聞 2022年1月1日朝刊(宮崎日日新聞社提供)

入館料	
一般	400円
大学生	300円
高校生	200円
中学生以下	無料



みなとみらい線「日本大通り駅」3番出口(情文センター)口直結
 JR根岸線・横浜市営地下鉄「関内駅」徒歩10分
 横浜市営バス「日本大通り駅県庁前」徒歩1分
 車で首都高速「横浜公園出口」から約3分

〒231-8311
 神奈川県横浜市中区日本大通11
 横浜情報文化センター
 TEL:045-661-2040 FAX:045-661-2029
<https://newspark.jp>

N ニュースパーク
 日本新聞博物館

